

# 中央公民館だより

## 地域医療魚沼学校との連携講座

～湯之谷公民館にて～



### 伝統を継承する

「地域の人たちの理解と協力が欠かせない」

中央公民館長 菲澤 文隆



先だって、入広瀬公民館で行われた「わら細工教室」に参加しました。伝統工芸の伝承を目的に、藁細工の技術を受け継いでおられる方を講師にお招きし、若い人たちに受け継いでいっていただこうという企画です。初心者向けのミニ俵作りだったからかもしれませんが、すぐ作業に没頭できました。出来栄は気になりますが、芸術的に云々といったことは抜きでできる気楽さがある難かったです。

かつて、藁細工は日常の中で必要に迫られて作られ、伝えられてきたものです。「用の美」と言われるごとく、俵や宝船、猫ちぐらに代表される藁細工は、諸外国の人たちから絶賛されている江戸時代の染物のデザイン同様、非常に洗練されたものと言えるでしょう。藁は、今まであまりにも身近な存在のため、その価値に気づきにくかったのです。最近、古民家や江戸時代の街並みなどに注目が集まっていますが、同一線上にあるものと思います。

ところで、最近は藁を手に入れるのが難しく、ほぼ一年前から準備しておかないと手に入らない、と担当者はこぼしておりましたが、こうして伝統文化が継承できるのは、やはり、地域の方々の理解と協力があるからこそだと思います。さらに多くの方々が伝統の技を受継ぎ、競い合うことで、より質の高い特産品として提供することができたならば、地域の活性化に一役買うこともできるのではないかと、まるで宝船の初夢を見た時のような思いに包まれました。

## 早津 剛 公開講座

### 「雪国の文化を育む」

～ふるさとの原風景を明日へ～

5月12日(日)、堀之内公民館大ホールにおいて、魚沼市在住の画家、早津剛さんによる公開講座が開催されました。

この公開講座は、6月から小出北部公民館で開催される「初心者水墨画教室」にも関連しており、市内外の受講者が学びの場を共有しました。

講演では、早津さんが描いてきた作品のスライドから全国各地の民家の様子を学びました。また、即興による水墨画の披露もあり一同見入ってしまいました。

早津さんの古民家への深い愛情、そして絵画を通じて伝え残したい雪国文化への強い思いが会場を包み、時には笑いが起こる場面もあるなど、和やかな時間が流れました。以前はどこにでもあった茅葺の家も、今は探すことが困難なほど。

刻々と失われつつある雪国文化について、改めて考え直すきっかけとなったことは間違いありません。



## 小出北部公民館にて開催中!

### 「早津剛初心者水墨画教室」

5月12日の公開講座終了後、6月10日から10月まで毎月2回、合計10回の「初心者水墨画教室」が小出北部公民館にて行われています。参加者は50代から90代の19名です。

はじめに先生からは、「基本にお手本をお渡ししません。お手本は描く題材そのものです。よく見て描く練習をします。一人一人の個性が出ればよいと思います。」とのお話がありました。初回の教室は受講者が自由に描き、その後先生が描き方のポイントレッスンをを行います。なかなか思うように描けず苦労し、半紙に書くのがやっとなりましたが、今はF10の大きな紙にも無理なく仕上げる事ができるようになりました。

9月23日には、さわやかな秋晴れの中、守門地域にある佐藤家でスケッチを行いました。

また講座の集大成として、11月1日から3日まで、堀之内体育館のエントランス通路にて、受講者の作品を展示します。受講者の力作をご覧ください。ご来場をお待ちしております。



# うおめま市民大学

## 「道中記に見る江戸期の旅」

〜魚沼からの伊勢参りと四国霊場巡り〜

魚沼市文化財保護審議会委員の松井正一さんを講師に迎え、7月27日、歴史講演会を開催しました。

江戸時代、魚沼からも毎年、大勢の人々が伊勢参りや四国遍路の旅に出かけていました。数ヶ月もかけて時には危ない目にも遭うこともある旅を、どんなふうにかけていたのでしょうか。当時の人々の様子を「道中日記」から探っていただきました。

100余枚のスケッチに日記を書き綴った「塩沢村の徳太郎一行の絵日記」、庶民の経済活動の記録としても資料的価値が高い「小出嶋大黒屋伝吉の道中記と小遣帳」を中心としたお話です。

「行く先々の人々は巡拜者にはとても親切で人情が厚かったようだ。道中記から当時の生活や考え方なども紹介したい。」と話が始まりました。これほど詳細な記録を書き残せたのは、江戸時代の人々が知的好奇心に溢

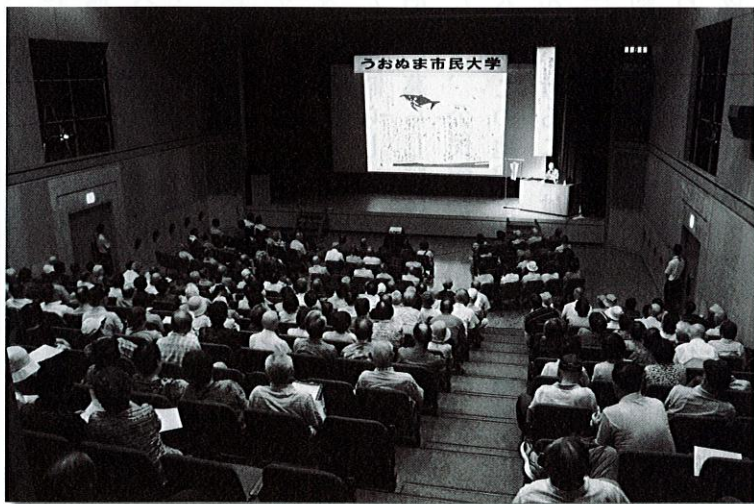


れ、教養が高かったこととの表れである。伊勢参りの経費は、1年分の生活費を優に超えるほどもかかったが、庶民の間にこれほど広がり続いたのは神仏を敬う信仰心はもとより、観光目的も多分に大きかったからとのこと。

また、柄杓（ひしゃく）が伊勢参りの必須アイテムでした。旅の途中でお金や食糧が尽きると、街道筋の人々に、施しを請けながら、お参りの旅を続けることができたと言われており、柄杓を差し出すことがヘルプのサインだったそうです。施しをすることにより徳を積むことが出来、また神宮のご利益をいただけると思われられていました。当時の人々の他者への思いやりの心を垣間見ることができるようですね。

公民館は人生の楽しみや生きがい探しのお手伝いをしたいと考えています。今後も、興味を持っていただけるような企画を考えていきます。

ぜひ、公民館に足を運んでみてください。



# 新潟県公民館大会

## 関東ブロック公民館大会

8月29日、30日の二日間、南魚沼市と湯沢町を会場に、第54回関東甲信越静公民館研究大会兼第64回新潟県公民館大会が開催されました。「人が集い、人が育ち、地域が元気になる公民館をめざして」社会の変容と公民館活動の創造」を大会テーマに、一日目は話題提起として朗読劇と講演、二日目は14の分科会で分野別に研修を行いました。

変容する社会環境の中で、公民館には、地域の振興と社会の発展に寄与する活動の充実が求められています。大会では、現場の担当者や有識者から、公民館の抱える課題や公民館活動のあり方について、様々な提言がありました。参加者から感想をお寄せいただきましたのでご紹介いたします。

**「人が集い、人が育ち、地域が元気になる  
公民館をめざして」に参加して**

生涯学習推進会議委員 山本 靖子



まだ残暑厳しい8月29日、南魚沼市民会館にて表記の会が開催され、多くのスタッフの方々、本当にありがとうございました。セレモニーを終え、上越市の社会教育委

員・公民館運営審議会委員の方々による、上越市における公民館の実情と問題解決への糸口を朗読劇にした発表があり、それを受けて新潟大学の雲尾周先生の講演がありました。社会教育と生涯学習の関係をわかりやすくご説明いただき大変勉強になりました。その講演の中で、各地域が抱えている公共施設の老朽化に對して、公共施設が多機能化・隣接自治体との共有化・学校への公民館、図書館の付設による多機能化という実践例を示したお話があり、当市においても学校にそうした機能が集約されることで、子どもからお年寄りまで色々な世代が同じ場所で交流を持ち、地域で子どもを育てていけたら素晴らしいと思いました。都市住民と違って、私達この魚沼市に暮らし続ける者にとって住みやすいまちづくりを進めるために、公民館が人の集う場所であり続けること、そこに集う人達でこの地域全体の利益、地域・生活上の問題解決に取り組んでいけることは、とても大きな意味をもつものと思います。一人一人が抱えている色々な問題も、この地域の特性として集約され、改善されていくものも多々あるのではと考え、これからも公民館活動に参加して行きたいものと思っております。最後にあなたにとって住みやすいまちづくり、ちよつと思ひ描いてみてください。



よろしくおねがします！

公民館長が交代しました



就任のあいさつ  
伊米ヶ崎公民館長  
森山 喜久男

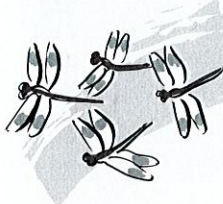
突然、前館長から、俺の次はお前だと言われ先輩でもあり他にも大変お世話になってるため何の知識もないまま引き受けてしまいました。とにかく忙しい。昨年からの計画の中で予定した講座、事業をやるのがやっとで、自分の今まで経験した仕事とはまったく違う経験をしています。

月日の経つのは早いもので半年が経過し、ようやく公民館活動の入り口に立ったと言う感じがです。

自分の育った地域にはたくさんの方の知識、技術、技術を持ったすばらしい大勢の市民がいることに驚きます。

また、そういった人と出会えたことが一番の収穫でありました。

今後は少しでも地域に根ざした活動が出来ればと思っています。今後ともよろしくお願ひします。



地域の輪が広がれば…  
入広瀬公民館長  
浅井 健五

公民館の目的には「区域内の住民のために、各種の事業を行い教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する」と書かれています。

四月から非常勤としてお世話になっていきます。初心に帰って皆さんと一緒に講座等の充実や、地区公民館だよりを発行し情報等の提供をして行きたいと思っておりますので、ご協力をお願い致します。

魚沼市が誕生して来年で早十年。旧町村の課題として少子・高齢化が迫ってきています。住民の発表の場として出演、出品団体により地区芸能祭や文化祭に実行委員会が組織されて、公民館も参加し地域が活性化されるよう応援します。

人が集まる講座にはどのようなしたらいいか。誰にでも来てもらいたい講座でなく、チラシ作成にも工夫し「私が行くべき講座」だと思われる内容に一步でも近づきたいし、参加いただいで地域の輪が広がればと思っています。

公民館名	館長	公民館主事	電話番号	FAX番号
堀之内公民館	斐澤 文隆 (新)	今野 美紀・櫻井 竜馬	794-6026	794-4210
小出公民館・小出北部公民館	古田島 修	山田 悦子	792-5336	792-5336
伊米ヶ崎公民館	森山喜久男 (新)	梅田 恵	792-0082	792-0082
湯之谷公民館	星 政幸	仲丸 律子 (新)	792-0530	792-0530
広神公民館	松田 光正	星野 京子	799-3227	799-2417
守門公民館	横山 治隆	平井 裕美	797-2261	798-3022
入広瀬公民館	浅井 健五 (新)	佐藤小百合	796-2322	796-2767

地区公民館の職員体制・連絡先

(新)は、H25.4.1～

# 地区公民館の活動報告

## 守門公民館

### 「書は心で書く」

須原 浅井 昇一



昔はエンピツやボールペンの無い時代はすべて筆で書いていました。今では筆字などはほとんど見る事ができなくなっています。年賀状やのし袋などはすべてパソコンでやっています。無味がないと思いませんか。でも一年のうち何回かは筆を持つ機会もあると思います。

守門公民館では年に三回くらいですが「書き付け教室」があり、参加させてもらっています。参加者も遠くは堀之内、小出の方も来ています。机に向かい心を落ち着かせ精神を統一させて少し緊張して筆を持ちます。その時の自分の心の中は字よりきれいな心になっていると自分では思っています。紙の大きさにバランス・字の大きさ・強弱を見極めて書かなければなりませんので、なかなか難しいです。わずかに二時間ですが神経を集中させて書いてるので終わると疲れませんが、その反面「やった」という感じで気分良く帰れます。きれいな字、好きな字は何回も書き込んで練習して覚えるようにしています。考える事、指先を動かす事により認知症も少しは遅れるかとも思っています。

また、切り絵教室にも参加していますがそちらも楽しいです。せっかくの公民館事業に進んで参加して、自分の身につけて得をするようにしたいと思っています。



## 参加者の声

### 入広瀬公民館

### 「俳句教室を楽しむ」

大栃山 大島 正徳



入広瀬地区公民館俳句教室に学び、楽しんで30年を迎えた。講師の山之内喜七先生に指導を受け、入広瀬俳句会として今年度は他地区から6名の参加者があり、15人で月1回の例会や春、秋の吟行句会を楽しんでいる。

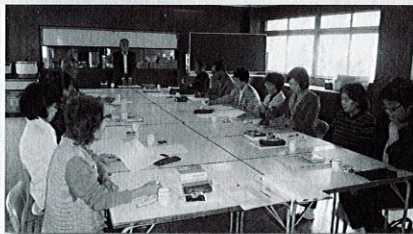
当初の頃の会員の多くは故人になられたが、今も往時の作品を開いては、先輩諸兄達の顔を懐かしく偲んでいる。その日、その時に見たもの、感じたことを季語に入れて五、七、五にまとめるのだが、なかなか例会の特選句には入らず苦戦が続いている。

今年三〇周年記念吟行として、話題の多い会津旅行を十月中旬に計画している。

秋深む 湖底を語る 石一つ  
県境の田子倉湖から柳津、喜多方、会津若松の史跡群、東山温泉へと夢はふくらむ。

数年前の柳津町吟行の会の折、唯一入選した会心の作？を一句。

丸出しの 会津弁過ぐ、  
紅葉寺（もみじでら）



## だんだん どーも

先般、南魚沼市で開催された関東甲信越静の公民館研究大会に初日は裏方として二日目の分科会には通常参加してきた。公民館を取り巻く昨今の厳しい情勢の中、各県から大勢の参加を得て開催できたことは大変意義深いものであった。特に分科会では各地の参加者との意見交換は有意義であった。その中で印象に残ったのは上越市の社会教育委員の構成が現職の小、中、高の校長先生と大学の先生を必ず含んでいた事だった。その地区の学校を巻き込んだの公民館活動は、社会教育としての観点から一つの原点と言われているが、振り返って自分の公民館はどうか反省させられた。もっと地域の中に入り皆様の声を聞きそれを形にしてゆくのが館長の仕事ではないだろうか、改めて今自分が問われている。（星）

## 表紙の

湯之谷公民館の長寿大学で、地域医療魚沼学校との連携講座が開催され生活習慣病予防について学びました。各公民館でも連携の輪が広がっています。

編集兼発行人 魚沼市中央公民館長 葦澤 文隆